※令和４年度以降入学生用

学校番号	102

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校生の美術Ⅰ」　（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・立体・版画」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと、目的や機能から考える「鑑賞」の分野について学習します。
・自分なりのアイデア、感じ方、見方、表現を深めていきましょう。
・表現形式の特性に注目し、線、形体、色彩などの要素を自分なりに工夫しましょう。
・お互いの作品を鑑賞しあい、作者の思いや表現に触れることで、他者の理解を深めましょう。

２　学習の到達目標

・美術の幅広い創造活動を通じて造形的な視点を養い、表現方法を創意工夫できるようにする。
・造形的な美しさや表現の意図を考え、価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深める。
・主体的に創造活動に取り組み、感性を高め、生涯にわたって美術を愛好する心情を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・過去のアーティストの作品を鑑賞し、その良さを感じ取り、その美のエッセンスを自分の制作に生かす。 ・「絵画」「立体」「版画」それぞれの表現において道具や画材を効果的に使用することを学ぼうとしている。	・効果や道具の使用をそれぞれの課題の目的や場に応じた使用方法を工夫している。 ・自分なりのアイデア、感じ方、見方を深め、他者にはない自分だけの良さを生かした作品作りを行っている。 ・お互いの作品を鑑賞しあい、相互の世界観や表現を理解しようとしている。	・自分の作品をもっとよくするためにはどうすればいいか、自分の作品と語り、試行錯誤を通して自分のこだわりを発見することを学んでいる。 ・アーティストや過去の作例から積極的に学び、自分の表現に生かしていこうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	人物デッサン	線について/線の魅力 ◆人物モチーフを線によって表現する。 ◆鉛筆、ペンと描画材を変え、さまざまなテクニックでそれぞれのモチーフを表現する。 ◆それぞれの描画材の使い方を理解し、モチーフの再現するのみでなく「表現」するためのものの見方、感じ方を考える。	a:過去のアーティストのデッサン作品の良さを知り、また鉛筆やペンの使い方を理解し、強弱などの変化をつけることができたか。 b: 線の表現について理解し、その美しさを表現することができているか。 c:多くの線を積極的に描き、線の密度や濃度を調節して線のからみあいからモチーフが現れることに挑戦しているか。	作品 制作プリント 観察	作品 制作プリント 観察	作品 観察
	室内風景(絵画)	◆美術室内のスケッチを行い、人物と室内を自然に表現する。 ◆室内の奥行、遠近感、雰囲気をアクリルガッシュの彩色で表現する。 ◆画面上で複数の人物の配置の仕方、机上のものや背景まで気を配って画面構成を行う。 ◆彩色する際、ものの感じを表現するための混色、かすれ、にじみ、などの効果をうまく使うことを学ぶ。	a:過去のアーティストの室内風景作品を見て、その良さを感じとり、自己の制作に生かしているか。 b: 筆の使用方法や彩色の手順を理解し、遠近感や部屋の空間、ものの素材感を彩色で表現することができたか。 c:色を積極的に塗り重ねることで色に深みや変化を出すことができたか。 偶然できるかすれ、にじみの美しさに気づくことができたか。	作品 制作プリント 観察	作品 制作プリント 観察	作品 観察
二学期	うごくおもちゃ制作(立体)	◆シンプルに車輪やプロペラが回るなどの動きのメカニズムを考え、幼稚園児などが遊べる、動くおもちゃを考える。 ◆木をカットし、サンドペーパーなどで美しく仕上げる。 ◆無垢の木の味わいを生かしながら、装飾を施し、見ても美しい作品に仕上げる。 ◆道具を安全かつ効果的に使用することを学ぶ。	a:おもちゃを動かすためにはどのような仕組みが必要か理解できたか。 道具を安全かつ効果的に使用することができたか。 b:子供が楽しく遊ぶためにはどのような工夫が必要か考えることができたか。 形や仕上げの美しいおもちゃを完成することができたか。 c:どうすればもっと面白い動きや効果的な装飾を達成できるかを、積極的に試行錯誤したか。	作品 制作プリント 観察	作品 制作プリント 観察	作品 観察

※令和４年度以降入学生用

	イラストである場面を表現する(デザイン)	【デザイン】 ◆テーマにそって、自分のオリジナルのイラストレーションを制作する。 ◆モダンテクニック(さまざまな偶然の効果を生かした技法)を体験する。 ◆アイデア、画面構成、彩色、仕上げを実制作を通じてマスターする。 ◆アイデア、伝えたいこと、を形にすること(自分を表現すること)を学ぶ。	a:多くのイラスト作品を鑑賞してその良さを感じ、テーマを表現するためのさまざまなテクニックや効果を知る。 b:モダンテクニックを体験し、その効果を自分の制作に生かすことができたか。 ある場面の文章をイラスト化するためのアイデアを引き出すことができたか。 c:構図の吟味や色の塗り重ねなど、テーマを表現するため、試行錯誤することができたか。	作品 制作プリント 観察	作品 制作プリント 観察	作品 観察
三学期	コラグラフで名画のカバーを制作する(版画)	◆間接表現である版画の特性を理解し、テーマを効果的に表現する。 ◆貼り付けるものの表面によっての違いを理解し、制作に生かす。 ◆版制作、刷りの工程を理解し、自分の作品を美しく仕上げる。 ◆名画を版画で再制作することで新しいものが生み出せることを知る。 ◆完成作品を展示し、お互いの作品を鑑賞する。	a:凸版、凹版、孔版、平版４つの版の違いを理解できたか。 間接表現である版画作品と絵画との違いを知り、偶然現れるかすれなどの良さを知り、版画の特性を理解できたか。 b: 版制作、試し刷り、本刷りの工程を理解し、作品を充実させることができたか。 版制作、試し刷り、本刷りの工程を理解し、作品を充実させることができたか。 名画をもとにコラグラフ版画で再制作することで、名画のパロディから新しい自分の作品となることを理解できたか。 c:試し刷り、本刷りと進む中で版を充実させたり、色を変えて何枚も刷るなど、自分のこだわりを実現することができたか。	作品 制作プリント 観察	作品 制作プリント 観察	作品 観察
			a: b: c:			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度